

Management Club Report

Oct.2022/Vol.238

Monthly Opinion 《高貴なる職業人の責任》

MCレポートのバックナンバーを紐解きますと、*Management Club Report Vol.53* に『プロフェッショナル・リーダーシップ』というテーマが登場します。そこに書かれていることは、15年も前の社会情勢や歯科医療界の問題点に対する対処法や、その原点となる発想や考え方についてですが、今読み返してみても大きな違和感がなく、現代の歯科医院経営のあり方に対しても効果的であるように感じました。来月8日と11日に予定しております『管理職向けランチセミナー／リーダーシップとフォロワーシップ』のストーリーの骨子の一部となっていますが、D☆STYLES での *Vol.53* の紹介文には次のように書かれていました。

「今月は、歯科医師と社会との関わりの中で、プロフェッショナルとしての責任を惜しまずに果たすことの重要性と、責任の果たしがいいのある社会を個人の力でいかにして作っていくか、という根本的な職業観について書いてみました」

この「プロフェッショナルとしての責任を果たす」とことと「責任の果たしがいいのある社会を作る」という2つのテーマは、この15年という年月の経過の中で既に解決され、理想的な姿が達成されているのでしょうか。

一部においてはその二つのテーマが達成され、独自のプロフェッショナル歯科医院としての地歩を固めている事例があることを承知しておりますが、全体感においては15年前の問題点がそのまま残るか、あるいは劣化しているようにすら感じられるのです。技術革新によって進歩を遂げているところは大変多くなっていますが、最もベーシックな“人格”という面がハードルを越えられずに停滞しているのではないかと危惧されます。

今月は、歯科医師と社会との関わりの中で、プロフェッショナルとしての責任を惜しまずに果たすことの重要性と、責任の果たしがいいのある社会を個人の力でいかにして作っていくか、という根本的な職業観について再度考えてみたいと思います。

1

社会全体から薄らいでいる専門家への敬意

「素人優位」「専門性軽視」の風潮は15年前から

MC レポート 53 号では、読売新聞に掲載された『職業の権威と責任／プロを敬う社会に』と題した劇作家山崎正和先生の論説を引用致しました。山崎先生は中央教育審議会会長、大阪大学名誉教授、L C A 大学院大学長などいくつもの要